



高校生向け
**資産
形成**
がわかる



担当=DZHフィナンシャルリサーチ・石原敬子

Refinitiv(リフィニティブ)はロンドン証券取引所グループ(LSEG)傘下の金融情報提供会社です

知りたい

投信 なるほど
リップバー

高校で本格的なお金の勉強が始まる

人生100年時代を生きるために

「もっと若い頃に聞いておきたかった」——。資産運用セミナーなどで家計管理や資産形成の話をする時、このような感想をいただくことがあります。お金の知識は生活する上で必要なのに、学校で十分に習う機会がなく大人になってしまおう、と感じる人が多いのです。

学習指導要領の改訂に伴って、2022年度からは、高校の家庭科や公民科(公共)で金融の知識を学ぶことになっています。現在も高校の家庭科で生活設計を学びますが、中心はやはり「衣・食・住」です。でも、私たちの暮らしには、それらを支えるお金が必要。消費者としてだけでなく、働いてお金を稼いだり、持っているお金を有効に活用したりするためにも、金融について正しい理解をしておか

なければなりません。

来年度以降の家庭科では、これまでの生活設計の單元より一歩踏み込んで、経済のしくみやお金の役割、具体的な金融商品の特徴について学びます。現実の社会や消費生活に役立つ具体的な内容で、社会に出てから必要な視点が身

につきそうです。

イラストでは、私たちが一生のどの場面で、どんな金融商品に触れるのかをまとめました。働いてお金を稼ぎ、ためて、使って、それでもなお、一生困らない資産を作り上げなければなりません。

以前、長寿社会研究の第一人者である英国のリンダ・グラットン氏が「2007年に日本で生まれた子どもは107歳まで生きる確率が50%」と発表して話題になりました。折し

も、その年代の子たちが高校生になるタイミング。ぜひこのコラムを続けて読んでいただき、「お金の寿命」も延ばせる知識を身につけてくださいね。



「知りたい投信」では、毎月第1金曜日の朝刊で、高校生や保護者のみなさん、そして現場の先生に向けた金融の話をお届けします。わかりやすく、実生活にも役立つ内容です。どうぞお楽しみに。

長い人生、金融商品とのつきあいは必須

